

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

| | |
|---------|-----------------|
| 団 体 名 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 |
| 施 設 名 | 東京芸術劇場 |
| 助成対象活動名 | 舞台芸術の創造現場を魅せる劇場 |
| 助 成 期 間 | 5 (年間) |
| 内 定 額 | 65,083 (千円) |

事業概要

(1) 事業計画の概要

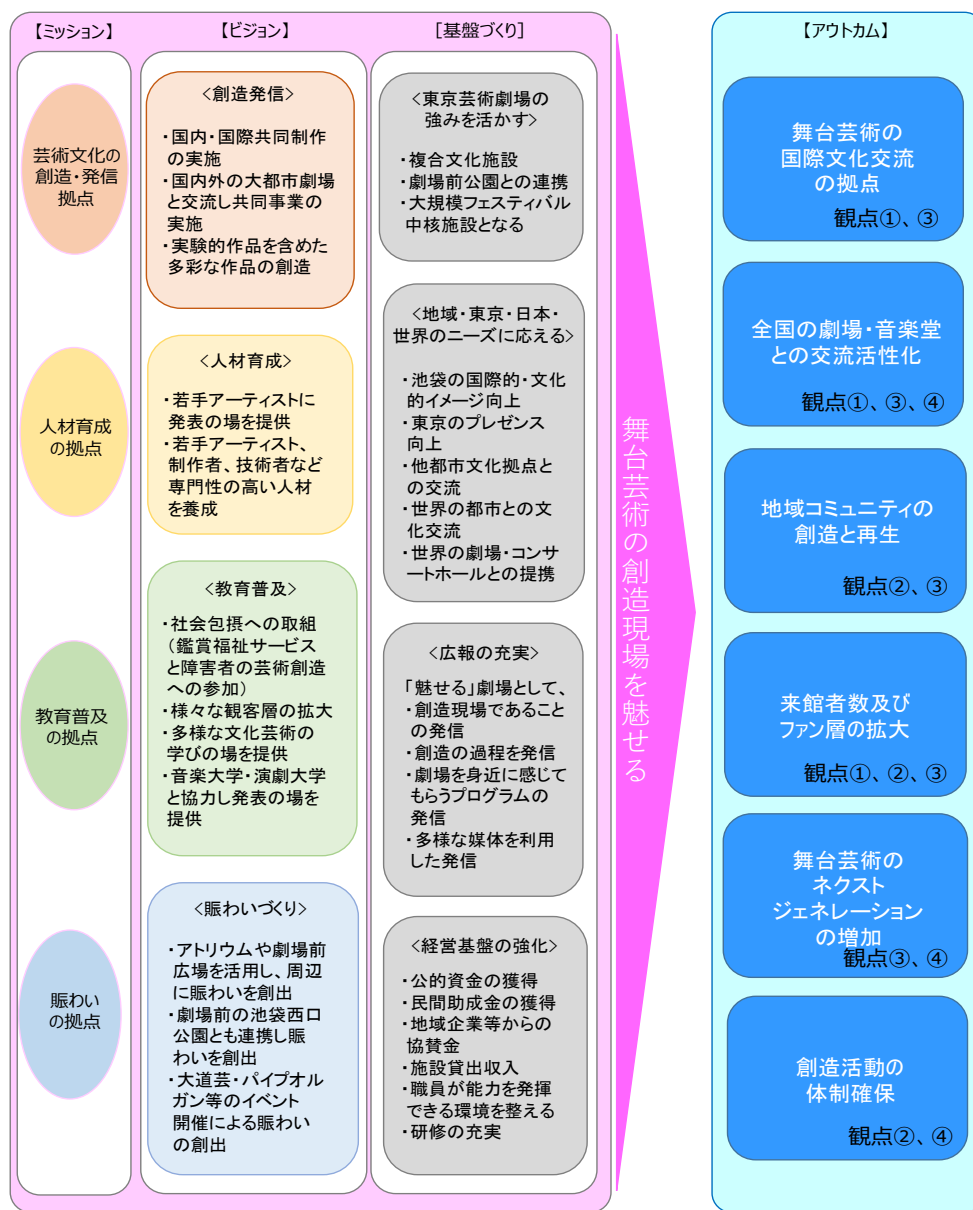
全体図（概念図）

舞台芸術に感動することは、人々の心を豊かにするだけでなく、生きていく上での様々な障害・困難を乗り越える力（イノベーション力）を生み出します。しかしながら、舞台芸術の鑑賞を気軽に行うことには一般の市民には様々なハードルがあることも確かです。

東京芸術劇場は3800万人とも言われる首都圏の国民の日帰り可能圏の舞台芸術施設として、また、日々約270万人が利用するターミナル駅に隣接する公共劇場として、舞台芸術と親しむにあたっての社会的なハードルの除去を仕掛けていきます。

まずは、劇場・音楽堂が単なる建物でなく芸術を創造し続けている魅力ある現場であること、そこではアーティスト(演奏家、演技者、ダンサー等)によって、日々、刻々芸術作品が作られているのだということ、そして、舞台芸術の作品はそこにあるのでなく観客がいて初めて作品になるのだということ、それぞれの事業を行いながら発信していきます。

劇場・音楽堂が人生を通じて身近で親しまれる場所になっていくために、東京芸術劇場は「舞台芸術の創造現場を魅せる劇場」としての取り組みを進めます。



(2) 平成30年度実施事業一覧

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----|---|---|--|---|----------|-------|
| | | 主な実施会場 | | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | 読響による事業提携シリーズ マーラー交響曲第8番『千人の交響曲』 | 2018年10月3日(水) | | 指揮：井上道義 管弦楽：読売日本交響楽団 | 目標値 | 1,650 |
| | | 東京芸術劇場 コンサートホール | | | 実績値 | 1,730 |
| 2 | 海外オーケストラシリーズ 「パリ管弦楽団」 | 2018年12月16日(日) | | ベルク／ヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出に」 マーラー／交響曲 第1番 二長調「巨人」 指揮：ダニエル・ハーディング、ヴァイオリン：イザベル・ファウスト、管弦楽：パリ管弦楽団 | 目標値 | 1,535 |
| | | 東京芸術劇場 コンサートホール | | | 実績値 | 1,409 |
| 3 | エル・システム・フェスティバル2018 | ガラコンサート 2018年12月1日(土) | | 指揮：エンリス・モンテス・オリバー、 出演者：福島県相馬市、岩手県大槌町、長野県駒ヶ根市の子どもオーケストラ、東京ホワイトハンドコーラス サイン隊・声隊 (指揮・指導：コロネりか、指導：井崎哲也、指導：土野研二)、ララ・ソモス | 目標値 | 1,500 |
| | | 東京芸術劇場 コンサートホール | | | 実績値 | 1,128 |
| 4 | 東京芸術劇場 Presents プラスウィーク2018 バンドクリニック『中・高生のための楽しい吹奏楽』 | 2018年9月9日(日) | | 講師：オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ、シエナ・ウインド・オーケストラ、東京佼成ウインドオーケストラ、東京吹奏楽団、広島ウインドオーケストラ | 目標値 | 100 |
| | | 東京芸術劇場 コンサートホール | | | 実績値 | 104 |
| 5 | コンサートオペラシリーズ 藤倉大：オペラ《ソラリス》(全幕) | 2018年10月31日(水) | | 指揮：佐藤紀雄、管弦楽：アンサンブル・ノマド、エレクトロニクス：永見竜生、出演：三宅理恵、サイモン・ベイリー、トム・ランドル、森雅史、ロリー・マスグレイヴ | 目標値 | 1,550 |
| | | 東京芸術劇場 コンサートホール | | | 実績値 | 1,424 |
| 6 | 藤田貴大 『BOAT』 | 2018年7月16日(月・祝) ～7月26日(木) | | 上演台本・演出：藤田貴大 出演：宮沢氷魚、青柳いづみ、豊田エリー、川崎ゆり子、佐々木美奈、長谷川洋子、石井亮介、尾野島慎太郎、辻本達也、中島広隆、波佐谷聡、船津健太、山本直寛、中嶋朋子 | 目標値 | 7,500 |
| | | 東京芸術劇場 プレイハウス | | | 実績値 | 5,012 |
| 7 | Roots Series「書を捨てよ町へ出よう」 | 2018年10月7日(日) ～10月21日(日) | | 原作：寺山修司 上演台本・演出：藤田貴大 出演：佐藤緋美、青柳いづみ、川崎ゆり子、佐々木美奈、召田実子、石井亮介、尾野島慎太郎、辻本達也、中島広隆、波佐谷聡、船津健太、山本達久 | 目標値 | 2,680 |
| | | 東京芸術劇場 シアターイースト | | | 実績値 | 3,776 |
| 8 | 橋爪功主演「父」 | 2019年2月2日(土) ～2月24日(日) | | 作：フロリアン・ゼレール 演出：ラディスラス・ショラー 出演：橋爪功、若村麻由美、壮一帆、太田緑ロランス、吉見一豊、今井朋彦 | 目標値 | 5,400 |
| | | 東京芸術劇場 シアターイースト | | | 実績値 | 5,417 |
| 9 | 朗読東京／自作自演 | 2019年1月24日(木) ～1月26日(土) ／2018年8月2日(木) | | [朗読東京] 演出：長部聡介 出演：西田尚美×豊田エリー、佐々木蔵之介×八十田勇一、板尾創路×梶原善 [自作自演]出演：永井愛×長田育恵 | 目標値 | 1,030 |
| | | 東京芸術劇場 シアターイースト | | | 実績値 | 771 |
| 10 | 勅使川原三郎『月に憑かれたピエロ』 | 2018年12月1日(土)、12月2日(日)、12月4日(火) | | 振付・美術・照明・美術・衣装：勅使川原三郎 出演：勅使川原三郎、佐東利穂子 歌：マリアンヌ・スプール 指揮：ハイメ・ウイルソン | 目標値 | 1,740 |
| | | 東京芸術劇場 プレイハウス | | | 実績値 | 1,355 |

(2) 平成30年度実施事業一覧

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----|---|--------------------------------|---|----------|----------------------|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 11 | 芸劇dance 愛知県芸術劇場提携プロジェクト『Stars Dance Concert 2019』 | 2019年3月8日(金)、3月9日(土) | ダンサー：マニユエル・ルグリ、オルガ・スミルノワ、シルヴィア・アッツオーニ、セミヨン・チュージン 音楽家：三浦文彰、田村響、滝澤志野 | 目標値 | 3,350 |
| | | 東京芸術劇場 コンサートホール | | 実績値 | 2,897 |
| 12 | オルガン・ア・ラ・カルト | 2018年4月26日(木)ほか | ナイトタイム：小林英之、新山恵理、平井靖子、川越聡子、原田圭、近藤岳、シモーネ・ヴェッパ、ダニエル・ザレツキー ランチタイム：新山恵理、平井靖子、荒井牧子、富田真希、佐藤礼子、長田真実、石丸由佳 ほか | 目標値 | 6,136 |
| | | 東京芸術劇場 コンサートホール | | 実績値 | 6,101 |
| 13 | 人材育成・教育普及 バックステージツアー | 2018年6月3日(日) | 内容：照明、音響、舞台機構など普段公演では見ることができないバックステージを紹介。参加者は照明や音響の機材を実際に触り、動かし、裏方の仕事を体験する。 スタッフ：東京芸術劇場 音響担当、照明担当、人材育成・教育普及担当、明治座 舞台 音響担当、照明担当 | 目標値 | 350 |
| | | 東京芸術劇場 プレイハウス | | 実績値 | 79 |
| 14 | 0才から聴こう！&4才から聴こう！春休みオーケストラコンサート | 2019年3月27日(水) | 指揮：鈴木優人、ナビゲーター：中井美穂、ソリスト：三村梨紗、管弦楽：読売日本交響楽団 | 目標値 | 2,900 |
| | | 東京芸術劇場 コンサートホール | | 実績値 | 2,481 |
| 15 | TACT/FESTIVAL ブランカ・リー『Solstice(ソルスティス)ー夏至／冬至』 | 2018年6月29日～7月1日(日) | 振付・演出：ブランカ・リー 音楽：タオ・ギュティエレス 出演：ブランカ・リー・ダンスカンパニー ほか | 目標値 | 2,000 |
| | | 東京芸術劇場 プレイハウスほか | | 実績値 | 1,498 |
| 16 | 人材育成・教育普及 公演関連レクチャーシリーズ | 2018年9月22日(土)ほか | ・コンサートオペラvol.6『ソラリス』公演関連レクチャー ・「障害とパフォーマンス・アーツ」レクチャー 講師：藤倉大×沼野充義、鴻英良、Ping Chong×鈴木京子 | 目標値 | 120 |
| | | 東京芸術劇場 リハーサルルームL ほか | | 実績値 | 133 |
| 17 | 音楽大学フェスティバル・オーケストラ演奏会 | 2019年3月30日(土) | 指揮：小林研一郎、管弦楽：音楽大学フェスティバル・オーケストラ 曲目：ベルリオーズ／序曲『ローマの謝肉祭』、チャイコフスキー／序曲『1812年』ほか | 目標値 | 1,400 |
| | | 東京芸術劇場 コンサートホール | | 実績値 | - |
| 18 | 芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー | アカデミー：通年 演奏会：2019年3月1日(金) | [アカデミー] 講師：下野竜也、東京佼成ウインドオーケストラ 他 スタッフ：東京芸術劇場(統括)、東京佼成ウインドオーケストラ(演奏技術指導)、上野学園大学(キャリアアップゼミ) [演奏会] 指揮：下野竜也、ソプラノ：木下美穂子 芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー 東京佼成ウインドオーケストラ | 目標値 | 800 |
| | | 東京芸術劇場 コンサートホール、リハーサルルーム ほか | | 実績値 | 416(演奏会) 20(メンバー) |
| 19 | 芸劇ジュニア・アンサンブル・アカデミー | 2018年7月7日(土)ほか | 講師：伝田正秀、杉本真弓、柳瀬 省太、正田響子、渡邊 千春、富岡康太郎、松葉春樹、大槻 健 | 目標値 | 10 |
| | | 東京芸術劇場 リハーサルルームほか | | 実績値 | 29 |
| 20 | 人材育成・教育普及 舞台技術セミナー | 2018年6月5日(火) | 講師：石丸耕一、金子彰宏、兼子紳一郎、渡辺隆行 | 目標値 | 120 |
| | | 東京芸術劇場 プレイハウス | | 実績値 | 141 |

(2) 平成30年度実施事業一覧

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----------------|-------------------------------|--------------------------------|--|----------|--------|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 21 | 東京芸術劇場プロ フェッショナル人材養 成研修 | 通年 | 内容：公開レクチャー、館内ゼミ、外部研 修 講師：東京芸術劇場職員、綿江彰禪、福井 学、杉浦太一、樽松大剛、朝倉由希、 関鎮京、秋野有紀ほか | 目標値 | 205 |
| | | 東京芸術劇場ほか | | 実績値 | 2 |
| 22 | 俳優向けワークショップ | 2018年10月21日（日） ～10月25日（木）ほか | 講師：リロ・パウアー、永井愛、スチュ アート・メルトン、デイヴィッド・ギル バート | 目標値 | 298 |
| | | 東京芸術劇場 シンフォニースペース ほか | | 実績値 | 231 |
| 平成30年度の目標値、実績値 | | | | 目標値 | 42,374 |
| | | | | 実績値 | 36,154 |

【妥当性】

自己評価

事業計画に必要な構成要素が関連し、当初の予定通りに事業が進められているか。

当館の4つのミッション「芸術文化の創造・発信拠点」「人材育成の拠点」「教育普及の拠点」「賑わいの拠点」は、当館の行う事業において複雑に関連している。

①当館で最先端の「芸術文化の創造事業・発信事業」（国際文化交流事業）を行うことで、それに触れられる機会を求めて日本の舞台芸術（音楽・演劇・舞踊）の将来を担う若手が当劇場に集う。

②彼らに研鑽の場（アカデミー、セミナー、ワークショップ事業）を提供することで彼らを育成する「人材育成の拠点」となると共に、こういう状態にある劇場を、将来を担う子どもたちに見せ、「教育普及の拠点」としても機能することになる。

③上記の活動を活発に行うことで、たくさんの人が当劇場に集まり、「賑わいの拠点」となることができる。

④その賑わいは施設内のテナントの収益事業にもつながり、その収益事業会計から生まれる資金の振替がさらに自主事業を活性化するのに役立つ。

と言う関連である。

2018年度は、当館の前にある池袋西口公園（IWGP）で、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）のためのライブビューイング会場と野外劇場化のための工事が始まり、当劇場と劇場前広場を一体化して行う活動に若干支障が出たが、2019年11月には、大型ビジョンを備えた野外劇場として機能し始める。そうなれば、当館と池袋西口公園との一体化した運営に拍車をかけ、さらに一般の方に舞台芸術の価値を訴えていくのに貢献していくことが出来る。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

○文化的意義

「パリ管弦楽団」の招聘、オペラ「ソラリス」のコンサート形式での上演、勅使川原三郎振り付け・出演による「月に憑かれたピエロ」など、国際的な出演者による事業を行うことで、国際文化交流・多文化共生に貢献。

○社会的意義

エル・システム・フェスティバルを行うことで、障がいを持つ方々が舞台に立ち、また、それを鑑賞することで、ダイバーシティに貢献。

○経済的意義

多くの事業を行うことで、池袋のイメージアップ、活性化に貢献。

【有効性】

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

○舞台芸術の国際文化交流の拠点

「月に憑かれたピエロ」、「父」、「Stars Dance Concert 2019」、パリ管弦楽団、「オペラ《ソラリス》」、また「オルガン・ア・ラ・カルト」、エル・システマなどで世界的著名な指揮者、歌手、演出家、ダンサーなどを招聘。

動員数はほぼ予定を達成したが、海外から当館を訪れる国際的なアーティストを、もっときちんと紹介していくプログラムの開発を考えたい。教育普及セクションと組むことで、さらなる広がりを模索する。

○全国の劇場・音楽堂との交流活性化

「Stars Dance Concert 2019」、「父」、「書を捨てよ町へ出よう」、音大フェス・オケ演奏会における全国の劇場・音楽堂等との共同作業、オルガニストの共同招聘。

年間複数の地方館との間で3事業以上を目標にしている。それぞれの館と長期的に事業の方向などの情報共有を進めていかねばならない。

当館は公益社団法人全国公立文化施設協会の正会員であり、平成31・令和2年度の2年間は副館長が理事に就任し、当館が関東甲信越静支部の事務局を担う。また劇場、音楽堂等連絡協議会のメンバーであり、全国の劇場・音楽堂と活発に情報交換をしている。

○地域コミュニティの創造と再生

工事に入る前の池袋西口公園では、ラ・フォル・ジュルネ期間中に芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー(WOA)メンバーが演奏に参加するなど、公園や地域と一体化したイベントに貢献した。「東京ホワイトハンド・コーラス」の活動は地域における社会的課題解決に寄与した。

○来館者数、ファン層の拡大

「オルガン・ア・ラ・カルト」における劇場ファンの拡大。そのためには、定期的な開催、プログラムの多様化、年に一回程度大規模な宣伝などが、必要。

○ネクストジェネレーション

継続的に実施している音大フェス・オケ演奏会、芸劇WOA、芸劇ジュニア・アンサンブル・アカデミー、公演関連レクチャーシリーズ、など。芸劇WOAは目標値に達しなかったが参加者は目標値を概ね超えた。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

当劇場の施設はそれぞれ特徴はあるが、決して他に類を見ないというものではない。当劇場のユニークポイントは、立地の良さ、そして、音楽の一流施設と演劇・舞踊用の施設の複合施設であることである。新宿駅に次ぐ世界第2位の乗降客数を誇る池袋駅に隣接し、地下道を通して雨に濡れずに劇場に到達できる。そこに、クラシック音楽専用の約2,000席のコンサートホール、834席（100人弱を収容できる立見スペース）のプレイハウス、約200から300席へと可変するシアターイースト、ウエストを擁する。

これらを活かした事業を行い、舞台芸術の社会的意義を一般の方に訴えていくことこそ、当劇場に課されている課題と考える。

○TACT/FESTIVAL

2018年度のTACT/FESTIVALは、GW期間に大規模な音楽祭ラフォルジュルネ(LFJ)を有楽町と池袋の2カ所で開催するという企画に乗り、時期を変更し6月に開催したが結果的に失敗であった。

LFJは会場が分散したことで有楽町の集客が落ち、また2カ所をつなぐ地下鉄を使ったイベント・宣伝が工事のため実施できなかったことも影響し池袋も満杯にはならなかった。大丸有地域と池袋地区では様々な取組み方が異なっており、まとまりを欠いた。

当劇場らしい演劇・ダンス等の要素を入れるべきと思ったが、LFJのプログラム精神とは合わず実施できなかった。結果的にLFJ池袋もTACT/FESTIVALも今ひとつ集客が伸びなかった。2019年度からは元のGWに戻して実施する予定。

○パリ管弦楽団の公演

入場券販売が伸び悩み、フランスに関連する団体等への優待斡旋や、パートナーシップ校、音楽大学への招待などを実施した。

○バックステージツアー

目標参加者数350人予定が、79人ととどまっているのは、2018年度は新たな劇場ツアーを準備する期間に当て立てたためである。「舞台芸術の創造現場を魅せる」ミッションを達成するためにも劇場ツアーを定着させ、東京2020大会開催時に向けて劇場ツアーのコーディネートをできる人（シアターコーディネーター）の養成に勤めている。

【創造性】

自己評価

事業計画の内容が、獨創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

当館の芸術監督野田秀樹は、2008年より参与、2009年より芸術監督として芸術的内容の責任者として運営に当たっている。

芸術監督就任後、国内演劇界の若手育成に力を注ぎ、芸劇eyesと銘打って若手劇団にシアターイーストを提供し（時期を希望に合わせて劇場費を減額する）、その後も若手提携公演「eye'sプラス」として若手の育成に努めている。また、小空間ばかりでの活動になりがちな若手演劇人にプレイハウスでの創造の機会を提供している。

自らの活動としては、2009年度「キャラクター」で読売演劇大賞最優秀作品賞、2011年には紫綬褒章、坪内逍遙賞、2013年「エッグ」で読売演劇大賞優秀作品賞、2014年「MIWA」でハヤカワ「悲劇喜劇」賞を受賞。

演劇の国際文化交流活動に熱心に取り組んでおり、芸術監督就任時には英国よりエドワード・ホールの率いる「プロペラ」を、タイより自らの作品「赤鬼」のリケイ・バージョン、その後もヨーロッパ・アジアより多数の作品を招聘している。

自身が英国人と一緒に英語で演じる「THE BEE」は8カ国での公演を行った。2018年度には「One Green Bottle」をロンドンとルーマニアシブウで上演。大型公演としては2015年に東京でのオリンピック開催をテーマとした「エッグ」を東京、パリのシャイヨー国立劇場で上演、2018年には「鷹作・桜の森の満開の下」を再びシャイヨー劇場で上演している。

国際共同製作としては、2013年に彩の国さいたま芸術劇場の芸術監督蜷川幸雄氏を演出に招き、イスラエルのテルアビブ市立劇場と当劇場との共同制作「トロイアの女たち」を企画し、両国での公演を成功させた。2015年には韓国の明洞芸術劇場との共同制作で自らの作品「半神」を韓国人俳優で演出しソウルと東京で上演した。2017年にはシンガポール芸術祭の芸術監督オン・ケンセンに依頼し、自身の作品「三代目、りちゃあど」を日本の歌舞伎役者、狂言役者、宝塚の元女優などとパリの影絵人形とシンガポール役者の組み合わせで上演するなど、積極的に文化の混流に努めている。

音楽事業では、2012年の大規模改修により更に音響の質を高めたコンサートホールを生かし、かつ他のコンサート専用ホールとの差別化を図るため、「未来の音楽シーンをつくるホール」をテーマに事業展開を始めた。

創造発信事業として、オペラの新演出、様々な委嘱作品初演に加え、企画会議の中で、若手音楽家による実験的コンサートの必要性が出され、その音楽監督として、世界的なフィールドで活躍している作曲家 藤倉大の起用が推薦された。それを受け、2017年から現代音楽の祭典「ボーン・クリエイティヴ・フェスティバル」を開始。

現代音楽を身近なものとして提供するこの事業は、特に音楽業界から高く評価され、毎年継続されている。

そして、2018年には、藤倉大の初のオペラ「ソラリス」日本初演を演奏会形式で行った。出演者は、世界初演時の歌手をはじめ、世界的に活躍している歌手を招聘し、そこに日本の若手歌手陣を加えた。また、企画から外国人招聘、演出、音響、舞台照明等、すべての制作業務を劇場のスタッフが行った。そして、藤倉はこの一年間の活動を評価され、平成30年度 芸術選奨音楽部門 文部科学大臣新人賞を受賞するなど、日本国内での評価が高まってきている。

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

○マスメディアへの露出

エビデンス参照

○海外・国内の他の劇場からの招聘実績

舞台芸術の国際文化交流の拠点として、世界各国から一流の指揮者、オーケストラ、オルガニスト、歌手、演出家、ダンサーなどを招聘。

また、全国の劇場・音楽堂との交流活性化として各地の劇場との共同作業や共同招聘を実施。

○設置者等外部からの評価

劇場内に学識経験者等により構成された「東京芸術劇場運営委員会」、また、事業運営の妥当性や効果評価する諮問機関として「東京芸術劇場外部評価委員会」を設置。

○情報発信

公式ウェブサイトアクセス件数 約6,500,000/年

twitterフォロワー数 約90,000件

Facebookいいね数 約5,100件

広報誌BUZZ発行数（年4回） 60,000部/年

【持続性】

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

○経営戦略

設置自治体である東京都との間での指定管理期間が2021年3月までの4年間となっているが、2021年度からは、長期の指定管理期間となるよう働きかけている。
それに先立ち、2020年度からは、2018年に成立した「障がい者アーツ法」を根拠に、障がい者のアクセスビリティ拡大・事業への参加のための体制を整えていく。

○音楽と舞台芸術系大学との連携強化

首都圏の音楽大学9校と協定を結び、各大学のコンサートと選抜メンバーで著名な指揮者を招いて行う音大フェスを当館、ミュージア川崎で行っている。

演劇系では、首都圏の実技系演劇大学5つと組んで、演劇大学連盟の活動に協力すると共に、5大学の共同制作公演に場所を提供している。

○経営資金の充実

協賛金の獲得に関しては、3代目の館長福地茂の時に年間一口20万円でパートナー事業者になれる制度をつくり、その後2015年より就任した荻田館長が先頭に立って企業協賛を集め、約2,000万円を維持している。

芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミーではクラウドファンディング事業を行った。当館でスキームを作り、アカデミー生が発案した2つのファンディングを行い、目標を達成し事業も行うことができた。その過程で、公益財団法人がクラウドファンディングに関わることについての様々な問題点も分かり、今後は財団事務局とも協力し担当部署の創設を模索していく。

○各専門分野の人材育成

俳優向けのワークショップを積極的に展開していたが、俳優志望の若手が継続的な訓練の場所が確保しにくいという日本の演劇状況に危機感を覚え「東京演劇道場」を立ち上げた。1,700名を超える応募者の中から300名を超える参加型のオーディションを行い60名にしぼり、2019年度より本格的な事業として開始する。

財団の職員派遣研修制度を利用して、2019年度は当館の職員をフランスでのダンス作品の制作過程に参加させる。